広島県知事・福山市長会談　議事要旨

（開催要領）

１　日　時：2023 年（令和５年）９月１日（金）16：00～16：45
（ぶら下がり取材～17：00）

２　場　所：福山城　月見櫓（対面開催）

３　出席者：広島県知事　湯﨑　英彦
福山市長　　枝広　直幹

（意見交換項目）

議題１　サミットを契機とした広島の魅力の発信について
議題２　若者の地元就職・地元定着の強化等について
議題３　スタートアップ共同調達推進事業について
議題４　福山道路（未事業化区間）及び神辺水呑線の高架道路による整備について

（概要）

＜議題１：サミットを契機とした広島の魅力の発信について＞

〇知事

サミットは３日間にわたってありましたが、その前後含めて５日間ほど大変広域にわたる交通規制を行いました。福山を含めて県民の皆様、様々なご不便をおかけしました。皆様お一人お一人のご理解、ご協力をいただいて、Ｇ７サミットは無事に終了いたしました。ご協力をいただいた自治体や県民の全ての皆様に御礼を申し上げたいと思います。

安全安心で円滑な開催というのがまず、第一にあったのですが、さらに広島らしいおもてなしの実現に向けて、福山市を始めとした県内市町と一体となって、官民連携という県民会議の枠組みが非常に奏功したと思っております。オール広島とよく言っておりましたが、まさにオール広島の取り組みがなされ、成功に貢献できたと思っております。

広島市は人類史上初めての被爆地であり、なおかつ、そこから目覚ましい復興を成し遂げた場所でありますが、そういったところから力強い平和のメッセージが発信されたということ、そして様々な場面を通じて広島の魅力が世界各地に発信されたこと。こういった二つの点がサミット開催の成果と考えており、これは本県の未来に繋がる非常に重要な機会にもなったと考えています。また、今回のサミットを機に世界から広島への注目度や関心度も高まっており、ブランド力も向上したと捉えております。

こういった追い風をしっかりと捉えて、特に二つの点に注力したいと思います。１点目は、核兵器のない平和な世界の実現に向けて、若者参画も含めた様々な平和の取組を

進めていくということです。そしてもう１点は、これを機に多くの観光客に国内外から来ていただくということに加えて、広島ファンの増加につながる選ばれる県産品の創出など、お客様や県産品、あるいはサービスを通じて広島の魅力をさらに発信をしていくということ、この二つが重要だと思っております。

これらを進めていく上で、漸減していく関心を時々持ち上げていくためにも、節目節目でサミットを思い出していただく仕掛けを作り、広島への注目・関心を継続的に再喚起していく。また、その注目・関心をさらに高い水準に持っていくということ。これを持続させていくことが必要と思っております。

そのような中で、２年後には福山において世界バラ会議が開催されます。サミットで盛り上がったこの広島への注目や関心を高いレベルで維持しながら、その盛り上がりをそのまま世界バラ会議につなげていきたいと思っております。そういう意味でも、県として、福山市と連携をしながら取り組んでいきたいと思っております。

また、取り組みにあたっては、それぞれの市町でいろいろと磨き上げた価値や強みが伝わるよう、取組を束ねながら発信していくことが重要だと思っております。福山市は備後圏域のけん引役でもありますので、是非、圏域内の魅力を束ねて発信するなど、福山市のリーダーシップに大変期待をしておりますので、よろしくお願いいたします。

●市長

まず、サミットの成功を改めてお慶び申し上げたいと思います。

広島サミット県民会議の会長である湯﨑知事を始め、皆様に敬意と感謝を申し上げます。

そして、全世界が注目する場で、本日ここに持ってきておりますデニムのサミットバックを始め、福山の多くの産品を採用していただきました。福山市民にとっては、大変大きな喜び、元気の出る大会でもありました。

感謝申し上げたいと思います。

先ほどお話にありましたように、2年後の世界バラ会議の位置付け、またバラ会議に対する知事の期待をしっかり受けとめて、バラ会議の準備に万全を期していきたいと思っています。

福山のバラは、そもそも戦後復興と平和の象徴という位置付けをしておりまして、それが評価をされて、世界バラ会議の開催が福山で決まりました。

バラ会議でも平和に向けた発信をしっかりとしていきたいと思っています。

そして、県内の皆様方にとってのバラ会議でもあると考えておりますので、県内各地の花の名所の訪問や瀬戸内海のクルージング、瀬戸内海の魅力など広島県の魅力をしっかりとアピールする場にもしていきたいと思います。

広島県に対する関心・注目を維持し、そしてそれを再び喚起をする。そんな場にしていきたいと思っていますので、よろしくお願いいたします。

○知事

世界バラ会議は福山市の魅力を始めとした本県全体の魅力を発信する絶好の機会だと思っておりますので、大会の情報発信や大会の参加者にしっかりとおもてなしをして、来て良かったと思ってもらい、皆様に発信していただけるように繋げていきたいと思いますので、そういった点も含めて福山市としっかりと連携をしてまいりたいと思います。

また、先程ご紹介のあったデニムバッグや、総理夫人にはデニムスーツを着て宮島を訪問していただきました。県産品や産地の情報発信は非常に大事だと思いますし、そういったものを皆様に楽しんでいただけるよう、様々な観光サービスやプロジェクトの中に組み込んでいかないといけないと思います。こういったことを通じて、福山を始めとする県内全域に国内外からお客様に来ていただき、あるいはその広域で回っていただくといったことに繋がっていくと思います。

また、世界バラ会議と同時期に大阪・関西万博があるため、こちらにも非常に多くのお客様が世界中から来られると思います。国内でも東日本や東北の方からたくさん来られると思うので、そういった皆様をこの地域に引っ張ってくることは非常に大事だと思います。せとうちＤＭＯと連携しながら、大阪・関西万博に行かれる方を県内全域に誘客していくということにも取り組んでいきたいと思います。

●市長

県のお力も借りながら、ぜひ成功させていきたいと思いますので、よろしくお願いします。

＜議題２：若者の地元就職・地元定着の強化等について＞

●市長

昨年の本市の転出超過が 952 人に上りました。中でも 15 歳から 19 歳までが 153 人、20 歳から 24 歳までが 405 人ということで、転出超過のうち若者が約 6 割を占めています。その要因も、就学や就職ということでした。

また、地元企業への就職率が高い工業高校や商業高校では、近年、入学者数が入学定員を下回っています。

そして、市内大学の地元企業への就職率についても、2015 年度から 7 年連続で減少し、2022 年度は 26.4%でした。

多くの企業が人材確保難を課題に掲げており、市の成長発展にとっても、新たな価値を生み出していく人材の育成や地元への就職・地元定着に向けた取組を進めることは、最重要かつ喫緊の課題と考えています。

そうしたことから、私たちは二つの取組を進めていきたいと思っています。

一つ目は、教育システムのあり方の問題、整備です。

本市では、デジタルやグリーンなどの成長分野をけん引する理系人材を育成するため、福山市立大学の情報工学系学部新設に向けて、検討を開始いたしました。

国の助成も受けられることになりました。

新学部が理系の進学を目指す若者の受け皿となり、理系人材が地元企業へ就職する流れを確かなものにしていきたいと考えています。

そして、これを契機とし、地元の学生が進学しやすい地域枠といった推薦制度、あるいは企業と連携した奨学金制度の創設などについても大学と連携し、積極的に導入していきたいと思っています。

また、県立工業高校や県立商業高校の定員割れの問題ですが、高校に対して、先端技術を持つ地元企業や伝統産業の熟練技能者を派遣するなど、地元の産業について実践的に学ぶ・接する、そして魅力を感じるようなプログラムも構築していきたいと希望しておりますので、県のご支援をお願い申し上げます。

そして、二つ目ですが、若者が働きたいと思う企業を増やし、その魅力を発信していきたいと考えています。

本市にはものづくり企業が多く立地しており、高い技術で環境対策に取り組む企業を始め、高齢者や障がいのある方の雇用、女性の活躍推進や共働き共育てへの理解など、社会や人にやさしいグリーンな企業も数多くあります。

そうした魅力をこれまで、うまく発信できていなかったと、課題を感じています。

こうしたことから、今般、グリーンなものづくり企業プラットフォームを官民連携で構築し、市内外へ本市のものづくり企業の魅力を発信していきたいと考えています。

同時に、グリーンなものづくり企業の数を増やして、最終的には企業の人材確保や営業取引の拡大、更なる技術力の向上、こうしたものにつなげていきたいと考えています。

そうした情報が若者により多く届くように、引き続き、県のご助言やご支援をお願いしたいと思います。

若者の地元定着については、県や市の教育部門や産業部門が一体となって取り組む必要がありますので、よろしくご指導お願いします。

○知事

福山市は人口、産業、都市基盤など、あらゆる面で県東部の集積地であり、現在、福山駅周辺の再整備など進んでおりますが、福山市の拠点性をより一層向上させることは非常に重要であり、それにより備後圏域の発展をけん引するとともに、県の人口流出を防ぐダム機能を発揮していただくということを我々も期待しております。

こういった中でも、福山市で転出超過が前年から大幅に増加していることは、県としても大きな課題だと考えております。県全体としても若年者の転出超過数は非常に多くなっております。20 歳から 24 歳の転出超過の内、就職を理由とする転出件数が令和４年度は 2,602 人と、社会減の大きなウエイトを占めています。超売手市場で、高卒の求人数は求職者数を大幅に上回っており、人材の育成確保は本当に喫緊の課題だと考えております。

これを踏まえ、県においてはデジタル人材を中心とする若者の県内への定着を推進するために、福山大学を含めた県内大学の情報系の学部や学科の学生 100 名を対象に、県内就職を条件として返還免除する奨学金を今年度から始めております。

令和９年度に福山市立大学でも情報工学部の設立を検討しているということですが、この奨学金を活用していただき、若者が県内にしっかりと定着をする取組を推進していただければと思います。また、福山市を始め、県内企業向けに「中小企業等奨学金返済支援制度導入応援補助金」も実施しており、福山市では「奨学金返済支援制度導入促進事業補助金」を進められておりますが、併用ができますので、地元人材の確保について、支援させていただきたいと思います。

また、県立高校では「学びの変革」を進めておりますが、その一環として、地域や大学と連携した取組も進めております。例えば福山工業高校では、福山市の地元企業と連携をして、染色に関連する技術を習得してもらうと同時に、介護着を作って地元の介護施設に寄贈するなど、地元に貢献する取組を行っています。

福山商業高校では、企業のリアルな課題解決をテーマとして、複数の地元企業と福山商業高校の生徒の皆さんとで連携し、企業が抱える課題を高校生の視点を通して解決策を考えていくなど、学校と地域とが一体となった教科横断的で総合的な取組を行っているところです。引き続き、こういった取組を通じて、福山市と学校で協働した教育活動を充実させていただきたいと思います。

そして、県内就職を進めていくためには、高校の早い段階から県内企業の仕事に触れる機会を作ることが大事であると考えており、県内企業に出前講座をしていただいてい

ます。今年度福山市では、定時制や特別支援学校を含めた県立高校９校で実施する予定としております。

また、インスタグラムの新設や広島業界マップの配布、就活情報サイト「Go！ひろしま」のLINE登録などの取組を行っています。地元企業の魅力発信はやはり重要であると考えており、「Go！ひろしま」で県内の業界地図や企業情報、採用情報、インターンシップ情報などを情報提供しています。これは地元の就職活動する上で役立つものであり、福山主催のイベントなどについても掲載をさせていただいております。

県では、環境エネルギー分野を重点分野として、新たな付加価値創造に向けた企業を後押しする取組を行っています。女性を始めとする多様な人材が活躍できる環境整備にも取り組んでいます。これは、「グリーンなものづくり企業プラットフォーム」とも同じ方向を向いていると思いますので、企業の取引拡大や技術向上、さらには県内への若者定着に向けて、しっかりと福山市と情報共有しながら連携して取り組んでいきたいと考えています。

●市長

理系の学生を育成するということにおいて、工業高校の先生の役割、工業高校の役割が大きいように感じています。

以前と比べて、中学校の技術科の授業時間が減っています。

そういうことも、理系学生の増えない要因に繋がっているのかもしれません。

例えば、工業高校の先生方が、中学校の技術の先生に、興味深い授業のあり方をアドバイスする。そして、工業高校は今度学部が新設される福山市立大学といろいろな連携を経て、工業高校の授業そのものを充実させていく。

どちらにしても、中・高・大のうち高校、特に工業高校の位置付けが大きくなり、それは期待の大きさにもなっています。

先ほどいろいろと具体的な取組のお話も知事から伺いました。それらを、ぜひ実践しながら、ゆくゆくは福山市立大学の情報工学系学部に、地元の工業高校の出身生が入学していくように頑張っていきたい。

ぜひ、よろしくお願いします。

＜議題３：スタートアップ共同調達推進事業について＞

〇知事

スタートアップについては、県として力を入れているところですが、県の事業で、「スタートアップ共同調達推進事業」を実施しています。本事業は、県内市町がそれぞれ持っている課題、あるいは行政サービスについての課題と、それらを解決できるようなアイデアや技術を持ったスタートアップとをマッチングして、上限 200 万円の活動資金によってスタートアップと市町が共同で実証実験や効果検証できるようにしています。

この事業については、県内各市町のご参加をお願いしており、福山市を含めて 15 市町から参加を表明いただいているところです。自治体が抱える課題に対して、まずスタートアップがいろいろな解決方法やソリューションを提供できるということを実感していただき、市町として大きな予算措置をせずサービスの費用対効果を検証できるということが、参加いただく市町にとってのメリットになると考えております。

福山市では、平成 30 年度から実証実験まるごとサポート事業を展開され、令和５年度からはふくやま実験クエストに取り組んでおられ、県のサンドボックス事業との親和性が非常に高いことから、スタートアップ共同調達推進事業でも相乗効果が生まれることを期待しています。

例えば、令和４年度のひろしまサンドボックス実装支援事業では、衛星データとＡＩを使った農地情報管理システムを実装しており、尾道市、安芸高田市、世羅町の３市町に導入されています。このように、自治体の課題は共通しているものも多く、ソリューションの横展開は非常に重要だと思っております。

福山市でも「スタートアップ共同調達推進事業」を有効に使っていただき、他の市町と情報共有をしていただければ、他市町でも横展開できるので、お願いしたいです。

また、他市町の取組で福山市でも取り入れられそうなものがあれば、導入検討していただければと思います。

市町と県で連携してスタートアップを支援していき、新しいソリューションを生んでいくことで、県内経済の活性化に繋がります。そういったところに若者が就職したいというのが今のトレンドでもありますから、是非、よろしくお願いします。

●市長

県の「スタートアップ共同調達推進事業」には、本市から今二つの課題提案をさせていただいています。

この事業で、スタートアップ企業と本市が良い出会いを持ち、そしてソリューションが得られれば、それを横展開していくことで、本来の共同調達推進事業の趣旨を体現していきたいと思います。

もちろん、今動いているこの事業でどういう議論が行われているのかもしっかりと見ながら、積極的に取り込んでいきたいと思っています。

先ほど言及いただきましたが、福山市では、「まるごとサポート事業」や、「ふくやま実験クエスト」など、民間企業の先端技術を活用して課題解決につなげていく取組を続けてきました。

福山という都市を全て、実験フィールドとして使ってもらう。フィールドは、山もあれば海もある、都市部もあれば、過疎地もあるため、いろいろな展開が可能になると思います。

そんな思いで、企業に向けて発信を継続してきました。

サンドボックス事業もよく似た事業で、そのような事業が県でも進んでいるということを心強く感じながら、今後も取組を継続していきたいと思っています。

「スタートアップ共同調達推進事業」の横展開については、県境をまたぎますが、備後圏域6市2町は大変密接な関係で備後圏域連携事業を進めてきています。

有用なソリューションが得られる見込みになれば、ぜひ備後圏域で積極的な横展開を図って、県の事業の本来の趣旨の実現をしていきたいと思います。

どうぞこれからも、よろしくお願いいたします。

＜議題４：福山道路（未事業化区間）及び神辺水呑線の高架道路による整備について＞

●市長

本市の東西幹線である国道２号は、通過交通や市中心部への交通が集中しており、慢性的な渋滞が発生しています。

そのような中、市の西部では一定の対策が進みつつあります。

まず、福山道路については、赤坂バイパスの東端から南東に向けて、福山道路 3.3 キロの事業化区間の整備が現在進んでいます。

用地買収率が 95%、事業進捗率は 46%であり、また県においては南北の幹線強化のための整備を進めていただいております。

それにより、この通過交通を南に捌かせる、あるいは、途中から芦田川沿いに北上していく交通を手前から北上させるなど、有効な施策であるということで、着実な推進を期待しています。

今回の要望は、市の東側の深刻な渋滞解消に向けた取組についてです。

南北の大動脈である国道 182 号と国道２号がクロスする明神町交差点の周辺が、東西南北ともに大変な渋滞であり、１日で、南北合わせて４万台が交差をする箇所になっています。

先ほど申し上げましたように、用地買収率も 95%まで進み、ほぼ半分近く事業が進んでいます。そろそろ福山道路の先線（未事業化区間）の事業化について、国も議論を始める時期が近づいてきているのではないでしょうか。

様々な延ばし方があると思いますが、本市としては、まず南北の道路整備をお願いしたいと思っています。

具体的に言いますと、都市計画に位置付けられている神辺水呑線の高架道路の整備を、ぜひ早期にお願いしたいと思います。

もちろん、この事業が効果を及ぼすためにも、先線（未事業化区間）の福山道路の整備も一体的に進めていただくのが効果的ではないかと思っています。

そのためにも、令和８年度からの次期「広島県道路整備計画」に、神辺水呑線を位置付けていただきたいと思います。

○知事

県東部は自動車文化ということもあり非常に渋滞が多く、渋滞解消は重要な課題だと認識しております。現在、福山道路や福山沼隈道路の整備を進めているところですが、福山道路の未事業化区間については、交通全体がどう動いていくかということに大きな影響を与えていくと考えております。現在、福山市や国も含めて、段階的な整備も含めて検討しているところです。引き続き、事業化に向けて、事務レベルで詰めていければと思っております。

そして、未事業化区間については、福山市や期成同盟会からの要望もたくさんいただいており、本年６月の施策提案で県選出の国会議員や国土交通省に対し、早期の事業化

を要望しており、引き続き福山市との連携を図りながら、早期事業化に向けて国へ要望していきたいと思います。また、神辺水呑線は、福山道路と一体的に進めることで効果発揮できると思っております。明神町交差点に大変な渋滞が生じるということで、神辺水呑線ができれば、南北方向の渋滞解消に効果があると考えております。

南北の交通の状況を見ると、通勤時間帯では、ご指摘のあった明神町交差点から入江大橋ぐらいまで繋がってしまうということで、これについては、渋滞原因や要因を把握していきたいと思っており、現在、渋滞状況の調査と分析を進めているところです。こうした分析の結果を踏まえながら、神辺水呑線の効果的な整備手法について、国や市と連携しながら、次期道路整備計画への位置付けを含めて、検討を進めていきたいと思います。一方で、これらの事業は相当な時間がかかると思いますので、渋滞が緩和するような、短期的なソフト対応策も検討していきたいと思っています。

●市長

渋滞解消に向け、知事のご理解をいただいていることはとてもありがたいことだと思っています。

本市は産業都市であり、渋滞によって、日本を代表する企業の国際競争力の低下やコストの増大に繋がりかねないこと、あるいは国道 2 号が混んでいて動きが取れないため、周辺の生活道路に車両が染み出していき、地域の安全を脅かすなど、幹線道路の渋滞により様々な影響があることを、市民の声の中から感じています。

国に対して、しっかりと、福山道路の次をどうしていただけるのかということを要望していく中で、県と一体となって渋滞解消に努めていきたいと思っています。

どうぞよろしくお願いいたします。

○知事

私自身も平日や休日にかかわらず、以前であれば福山西インター、最近では福山サービスエリアのスマートインターを使いますが、やはり渋滞にはまってしまいます。身にしみて感じておりますので、協力しながら事業を進めていきたいと思います。

●市長

ありがとうございます。これは、国に対して申し上げることなのですが、幹線道路のミッシングリンク（未整備部分）の整備を山陰道でよく要望しています。

私も今、中国国道協会の会長を仰せつかっておりますから、国へ挙げる要望は山陰道というわけです。

しかし、いたるところにミッシングリンクがあり、気が付くと今や瀬戸内のミッシングリンクに福山道路が、福山市がなっているということでありますので、そういう意味でも国への理解をさらに求めていきたいと思います。